

廃棄物学会ニュース

Japan Society of Material Cycles and Waste Management

廃棄物学会は、2008 年 12 月 1 日から一般社団法人廃棄物資源循環学会となりました

No.111

廃棄物資源循環学会

一般社団法人廃棄物資源循環学会 定時社員総会開催報告

平成 21 年度一般社団法人廃棄物資源循環学会の定時社員総会は平成 21 年 5 月 25 日（月）に川崎市産業振興会館 1 階ホールにて開催された。出席者 96 名に委任状提出者 627 名を加え合計 723 名となり、正会員数 2,725 名の 4 分の 1（682 名）の有効定数を上回り、総会は成立した。

最初に山本会長より開会の挨拶がなされ、昨今の新型インフルエンザ問題を踏まえて、総会と記念式典は開催することとしたものの、飛沫感染のリスクが高い祝賀会は自粛するとの判断に至った経緯が説明された。

総会の議題に入る前に、議長としてダイネン㈱の河端博昭氏が選出され、議事録署名人として JFE ビーレック㈱の澁谷榮一氏と㈱タクマの角田芳忠氏の 2 名が了承された。

まず西垣企画運営委員長より、旧廃棄物学会関連の報告として、平成 20 年度廃棄物学会事業報告と同収支決算について説明があった。本報告に関して、廃棄物学会は、第 4 回及び第 5 回アジア太平洋廃棄物専門家会議の事務局であったことと、第 5 回アジア太平洋埋立国際会議（APLAS 2008）は廃棄物学会が主催であったことを修正・追記することです承いただいた。

引き続き一般社団法人廃棄物資源循環学会関連議案に移り、1 号議案：廃棄物学会からの財産引継ぎ及び 2 号議案：一般社団法人廃棄物資源循環学会基金について一括して説明され、その後了承された。



次に 3 号議案：一般社団法人廃棄物資源循環学会事業報告と 4 号議案：同収支決算について報告があった。なお、収支決算は、廃棄物学会分を含めた年間収支を示す補足説明資料を用いて説明がなされた。

これらの説明に関連して、八木監事より収支決算の監査結果について適正に処理されていたことを確認した旨報告があった。合わせて伴野監事からは、会費収入の減少に歯止めのかかりにくい状況下で、新規会員の獲得、新規事業の推進により収入増を図る一方で、事務経費の節減、事業の重点化を進め支出を削減し、将来にわたり収支均衡した健全な財政を維持するための抜本的な取り組みを検討するよう付帯意見が述べられた。両議案ともに承認されたが、これらの報告に対し、会場からは、日韓の国際協力事業を引き続き積極的に推進して欲しいこと、若手の会の活動実績を事業報告に記載すること等の要望があった。

続いて 5 号議案：平成 21 年度一般社団法人廃棄物資源循環学会事業計画（案）の説明がなされ承認された。さらに 6 号議案：平成 21 年度一般社団法人廃棄物資源循環学会収支予算（案）について説明がなされ承認された。

7 号議案では、現在顧問を委嘱している藤田賢二氏が名誉会員として推薦され、承認された。

以上をもって定時社員総会の議事はすべて終了した。

（企画運営委員会 長田守弘）

平成20年度一般社団法人廃棄物資源循環学会賞表彰式を開催

平成21年度一般社団法人廃棄物資源循環学会総会に引き続いて、平成20年度の学会賞表彰式が行われ、2件の大賞、3件の功績賞、2件の論文賞、2件の奨励賞が贈呈された。

大賞は、廃棄物学会の第6代会長の田中勝氏と第9代会長の武田信生氏に贈られた。功績賞は、本学会の運営に顕著な功績があった井手義弘氏、小林康彦氏、澤地實氏の3名に贈られた。論文賞は、浮田正夫氏、李博洋氏、樋口隆哉氏、今井剛氏の「家電リサイクル法施行前後における不燃・粗大ごみ資源化状況に関する研究」（廃棄物学会論文誌第19巻第4号掲載）と、清水芳忠氏、若倉正英氏、新井充氏の「ごみ固形燃料の蓄熱危険性評価に関する研究」（廃棄物学会論文誌第19巻第6号掲載）が高い評価を受けて選ばれた。

奨励賞は、肴倉宏史氏と水谷聡氏に贈られた。肴倉氏については、建設系再生製品及び焼却残渣等の環境安全評価方法の確立や規格化に関する一連の研究が高く評価された。水谷氏については、廃棄物や処理残渣の溶出試験に関する基礎研究や廃棄物管理に関する研究成果が高く評価された。

なお、表彰式に引き続き授賞記念講演が開催され、論文賞を受賞された浮田氏と清水氏、奨励賞を授賞された肴倉氏と水谷氏が講演を行った。

（企画運営委員会 片柳健一）



平成20年度一般社団法人廃棄物資源循環学会各賞受賞者	
大賞	・田中 勝（鳥取環境大学）（敬称略） ・武田信生（立命館大学）
功績賞	・井手義弘（前廃棄物学会副会長） ・小林康彦（（財）日本環境衛生センター） ・澤地 實（（株）エックス都市研究所）
論文賞	・浮田正夫（山口大学） ・李 博洋（山口大学） ・樋口隆哉（山口大学） ・今井 剛（山口大学） ・清水芳忠（神奈川県産業技術センター） ・若倉正英（神奈川県産業技術センター） ・新井 充（東京大学）
奨励賞	・肴倉宏史（国立環境研究所） ・水谷 聡（大阪市立大学）

学会創設20周年・新法人設立記念式典 日・韓廃棄物学会協力協定改定調印式

記念式典のトップを飾り、放送大学鈴木基之教授から「有限に向かうパラダイムシフト」と題する特別講演をいただいた。有限の資源、地球温暖化危機の時代にあって、低炭素・自然共生循環型社会という持続可能なグローバル社会の形成が重要であり、廃棄物の概念を資源循環の概念にシフトするためにも、廃棄物資源循環学会に期待するものが大きいとのお話があった。

特別講演に引き続き、学会創設20周年・新法人設立記念式典が行われた。まず貴田副会長の開会宣言の後、山本和夫会長から、学会設立20周年記念式典参加への謝辞と、新法人設立を機に廃棄物資源循環学会に名称



放送大学鈴木基之教授特別講演

変更した経緯の紹介があった。名称変更にあたり、①3Rの推進、循環型社会構築、上流を意識した資源循環を考慮した総合的な実学を目指し、社会に貢献すること、②他学会およびアジア学術連携も視野に入れ、国際連携の具体活動として、アジア太平洋廃棄物専門家会議の開催、韓国廃棄物学会との連携（国際学術誌の共同編纂）などの重要性を述べられた。さらに、会員の減少する中であって、魅力ある若手の活躍の場を提供しつつ、持続可能な会員増強にも力を入れ、新しい10年への船出に会員相互の尽力が必要であることが強調された。最後に、韓国廃棄物学会会長以下4名の参列への感謝と今後の連携のお願いをして挨拶を締めくくった。

続いて来賓の祝辞があり、まず環境省廃棄物・リサイクル対策部谷津龍太郎部長より、廃棄物資源循環学会は、適正処理を原点としつつも上流を指向し、学術的な立場から社会の先導的役割を担い、循環型社会の構築と廃棄物問題の解決に貢献することへの期待が述べられた。さらに、①工学、理学、法学、経済学とも関連が密な廃棄物資源循環学は、持続可能な社会の形成に対し、資源の側面からアプローチするものであり、循環型社会と低炭素化社会の両立のための政策オプ

ションの提示や政策提言が求められていること、②環境省としては、廃棄物資源循環学会との連携を図り、科学技術に裏打ちされた合理的な政策実現に取り組む所存であることが紹介され、今後のますますの発展をお祈りすることが述べられた。

続いて式典に参列いただいた韓国廃棄物学会を代表して、Soo-Koo Lee 会長より、①韓国大邱（Daegu）市で行われた第 14 回韓国廃棄物学会に山本会長、松藤副会長を迎え、英文論文誌の発刊協力協定について 5 月 14 日に調印したこと、②この事業を通じて、より一層両学会の協力関係を推進するとともに、アジア、世界の方々に広く購読願えるものと期待すること、③韓



環境省谷津龍太郎部長祝辞



日・韓廃棄物学会協力協定改訂調印

国も学会名称変更の検討を進めていること、④20 周年を迎えた学会のますますの発展をお祝いすることの祝辞があった。

続いて、学会名称が変更になったこと、日本と韓国が共同して英文論文誌の発行を行うことから、「日・韓廃棄物学会協力協定（1996 年 5 月 10 日締結）」の改訂をするための調印を行った。

さらに、松藤副会長が、学会創立から現在までの「20 年のあゆみ」をパワーポイントを用いて説明し、大人になった学会の新たな発展に共に尽力しようと語りかけた。

ひき続き、学会設立以来長年にわたり、学会発展に貢献された方々（63 名）を代表して中村恵子様に、韓国廃棄物学会を代表して Sung-Keun Bae 副会長に、団体（16 団体）を代表して（財）日本環境衛生センター奥村明雄理事長に、企業（18 社）を代表して㈱タクマ手島肇社長に山本会長から感謝状が手渡された。

最後に、酒井副会長より新しい船出にあたり、新学会への多くの期待に対し、廃棄物資源循環学を究めつつ、社会貢献するというミッションに対し、身を引き締めて学会運営に携わっていくことの表明と協力をお願いして閉会の挨拶とした。（企画運営委員会 西垣正秀）



感謝状贈呈

平成21年度研究討論会開催報告

5 月 25 日（月）、26 日（火）の 2 日間にわたり、川崎市産業振興会館において平成 21 年度研究討論会が開催された。今年度は、次の 5 件のテーマが企画された。

- ①レアメタル回収に向けた動きと分析手法相互検証への取り組み
- ②一般廃棄物処理計画について－3R・適正処理の推進のために－
- ③産業廃棄物処理のトップランナー
- ④廃棄物及び関連試料中のアスベスト測定法の検討と精度管理について
- ⑤一般廃棄物の現状と課題～法と実務のミスマッチ～

このうち①②④の 3 件が研究部会、③⑤2 件が学術研究委員会による企画である。初日午前の 2 件の企画は、1 階ホールと 4 階展示場で同時に開催され、残りの 3 件はすべて 1 階ホールにて単独開催された。折しも、世界的な新型インフルエンザの流行により、社会活動に制限を受ける状況であったが、両日とも晴天に恵まれこともあり、参加総数は 162 名を数えた。2 日目の

午前中には、昨年に続き、ポスターセッションを実施した。また、今年度からの新しい試みとして、関連団体のパネル展示を併設し、大阪湾広域臨海環境整備センター、（財）日本環境衛生センター、（独）石油天然ガス・金属鉱物資源機構、（財）日本産業廃棄物処理振興センター、（社）全国産業廃棄物連合会、（財）廃棄物研究財団の 6 団体から展示のご協力を頂いた。4 階展示場のゆったりとした雰囲気の中、ポスター発表 17 件、団体展示 6 件について活発な議論が交わされた。

今年度は新型インフルエンザというアクシデントに見舞われたり、また、事務作業の簡略化のため事前登録を廃止するなど新たな試みを実施したにも関わらず、大きなトラブルもなく開催することができた。この場をお借りし、討論会にご参加頂きました方々はもとより、運営に携わって頂いた皆様に御礼を申し上げます。（学術研究委員会 大木達也）

韓国廃棄物学会参加報告

平成 21 年 5 月 14 日～16 日、韓国大邱市のコンベンションセンター大邱 EXCO にて、韓国廃棄物学会 2009 年春季学術研究発表会が開催された。韓国で 4 番目の人口を抱える大邱市は釜山から新幹線 KTX で約 1 時間の位置にあり、2002 年 FIFA ワールドカップも開催された。

今回の学会の前にメキシコで発生した新型インフルエンザが世界中に蔓延し、日本でも 4 人の感染者が出たと報道されていた。そのため、一部の機関からの参加が取りやめとなったが、山本会長、松藤副会長・国際委員長以下、福岡大学、九州大学、国立環境研究所などから 14 名が参加した。

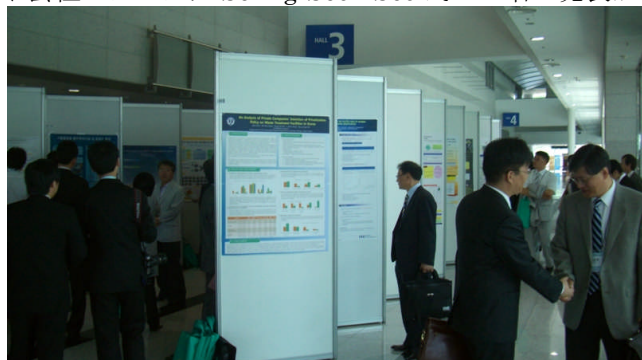
5 月 14 日、第 13 回韓日共同国際セッションにて、韓日特別シンポジウムとポスターセッションが行われた。特別シンポジウムのテーマは「バイオマスタウンと廃棄物エネルギー利用」で、日韓両学会長などの挨拶の後、日本からは龍谷大学の石垣智基氏（京都市の中村氏の代理）、静岡大学の中崎清彦氏の 2 名、韓国からは韓国環境省の Byung-Chul Choi 氏、SK コンサルタント会社のソンソク Seung-Seok Seo 氏の 2 名の発表が

あった。石垣氏が「京都市のバイオマス利活用の取組み」、中崎氏が「日本におけるバイオマス資源からのエタノール生産」を発表した。韓国からは、Choi 氏が「廃棄物エネルギー利用の包括的マスタープランの推進」、Seo 氏が「木材バイオマスのエネルギー利用技術」を発表した。

ポスターセッションでは、日本から 11 編、韓国から 8 編、計 19 編の研究が発表された。

懇親会に先立ち、山本会長と韓国廃棄物学会の Lee 会長による英文論文誌の発刊協力協定に関する調印式が行われた。

5 月 15 日には、韓国廃棄物学会の会長、国際委員長他と松藤副会長・国際委員長他とで意見交換を行った。その結果、今年の日本廃棄物資源循環学会研究発表会での国際セッション・国際シンポジウムは、アジア太平洋廃棄物処理専門家会議（SWAPI）と共催して行うこと、ポスターセッションは事前に 2 分程度の口頭説明を行うハイブリッド方式にすること、シンポジウムには韓国からは従来通り 2 名が発表することなどが了解された。（国際委員会 鈴木明郎）



第 2 回日韓若手研究者交流会開催報告

平成 21 年 5 月 14 日～16 日、韓国大邱市で行われた「第 13 回日韓廃棄物学会国際シンポジウム」において、「第 2 回日韓若手研究者交流会」を若手の会主催で開催した。シンポジウムの日本側参加者のうち、若手研究者 9 名（学生含む）が交流会に参加した。韓国廃棄物学会側からは大学の研究者だけでなく、学生、企業の若手等の計 13 名が参加した。シンポジウム終了後、会場近くの焼肉屋に移動して盛大に交流会を開催することができた。始めに、若手の会世話人より、本交流会の意義と将来の展望などを説明し、その後韓国側、日本側と交互に自己紹介をして貰った。国際交流会なので、日本側は全員英語での自己紹介を行った。韓国側には英語よりも日本語が得意な研究者が数人おり、日本語と英語の入り混じった会となった。日本から参加した学生達は、英語での意思疎通に不安を抱いていたが、日本語が少し通じたため、研究に関する事はもちろん韓国の生活や文化等についても、積極的に情報の交換ができていた。

昨年、京都で行った第 1 回交流会には、韓国側の参加者が少なかったが、今回の交流会には全員で 20 名を超える参加があり、成功裏に終わることができた。「若手の会」の国際交流事業の一環として昨年から開催しているこの交流会が、今後、より多くの参加者を集め盛大なものになるよう努力していきたい。

（若手の会 平田修）



第20回廃棄物資源循環学会研究発表会開催案内

学会名称が廃棄物資源循環学会へ衣替えされてから初めてとなる、通算 20 回目の研究発表会が、9 月 17 日（木）から 19 日（金）の 3 日間の日程で、名古屋大学にて開催されます。今年は例年より 2 ヶ月早い開催になるため、発表申込などでは例年にも増して情報発信をさせていただきました。おかげさまで、昨年並みの 335 編（口頭発表 193 編、ポスター発表 94 編、国際セッション 48 編）を予定いただくこととなりました。

参加者の皆様楽しんでいただけるよう、研究発表会実行委員会では例年よりも多くの企画準備が進行しています。特別プログラムでは、「生物多様性条約 COP10 を 1 年後に控えて」と題し、COP10 の取り組みが紹介され、そのための私たちの役割などが話し合われる予定です。また後述の企画セッションとして、「伊勢湾台風から半世紀～災害廃棄物を考える」の他、環境教育、および、省 CO₂ 型社会を題材としたセッションが催されます。

第 20 回を機に、国際セッション、国際シンポジウムや小集会が衣替えされることになりました。まず、国際セッションは、ポスター発表に先だって、2 分間のショートプレゼンテーションを発表者全員で順次行うハイブリッド方式になります。国際シンポジウムは韓

国廃棄物学会に加えて、今年はアジア・太平洋廃棄物専門家会議（SWAPI）の参加者を交えて盛大に開催される予定です。また、研究部会による小集会は、オープンな雰囲気をねらいに「企画セッション」と名称を一新し、それにふさわしい内容を準備中です。

さらに本研究発表会に先立って、9 月 14 日から 16 日には同じ会場で「環境技術および資源マネジメント国際会議（R'09）」が開催されます。なお、施設見学会は R'09 との共催で第 1 日目午前に予定しており、参加の場合は事前申込が必要ですのでご注意ください。また、市民展示は例年にも増して賑やかに開催される予定です。さらに、研究発表会参加者には名古屋大学博物館の観覧が無料となる特典が付きます。また、意見交換会では例年通り、優秀ポスター賞の表彰が予定されています。まだまだ書ききれない行事が目白押しです。その詳細については、学会ホームページならびに 7 月上旬に発送予定の研究発表会参加案内をご覧ください。

残暑厳しい名古屋でお待ちしております。服装は、クールビズでお越しください。

（学術研究委員会 肴倉宏史）

第 6 回アジア太平洋廃棄物専門家会議のお知らせ

アジア太平洋廃棄物専門家会議(Society of Solid Waste Management Experts in Asia and Pacific Islands : SWAPI)は、アジア・太平洋諸島地域における廃棄物の適正処理と 3R を推進するための専門家ネットワークの形成を目的として、各国・地域の専門家を招聘して、2005 年より毎年開催されております。

第 6 回 SWAPI 会議は、廃棄物資源循環学会研究発表会との同時開催で、海外より約 20 名の専門家を招聘して以下のように行われます。特に、共催となる国際セッション、国際シンポジウムでは、SWAPI からの専門家が発表します。循環型社会の世界的な構築は、新学会の貢献すべき重要な課題であります。これを契機に、アジア・太平洋諸島地域の廃棄物分野専門家と学会会員との各分野における連携と協力がより一層進展することを期待しております。

スケジュール（予定）

9 月 16 日 （水）	午前 昼食時 午後の一部 夜	SWAPI 専門家会議（1 回目）（場所：豊田講堂） SWAPI 国際諮問委員会 R'09（環境技術および資源マネジメント国際会議 2009）の World Resources Forum への参加 歓迎パーティ（場所：グリーンサロン東山）
9 月 17 日 （木）	午前 13:30～15.00 15:15～	施設見学 国際セッション口頭発表（場所：豊田講堂） 国際セッションポスター発表（場所：豊田講堂） （学会研究発表会の国際セッションに SWAPI メンバーも参加）
9 月 18 日 （金）	09:15～14:45 15:00～ 18:15～	国際シンポジウム（場所：豊田講堂） （廃棄物資源循環学会、韓国廃棄物学会と共催） SWAPI 専門家会議（2 回目）（場所：豊田講堂） お別れパーティ（学会意見交換会に参加）

連絡先：SWAPI 実行委員会事務局（(財)日本環境衛生センター企画部国際協力室内）

TEL：044-288-4937 FAX：044-288-5217 e-mail：kokusai@jesc.or.jp

（国際委員会 SWAPI 事務局部会 松村治夫）

【お知らせ】

法人化に伴う学会ロゴマークの公募について

本学会は、法人化と名称変更に伴い、学会ロゴマークを刷新し、そのデザインを学会員に公募することと致しました。募集要領は下記のとおりであり、皆様のご応募をお願い致します。

【募集要領】

- 募集対象者：学会正会員、学生会員、登録団体市民会員、賛助会員（その構成員）、公益会員（その構成員）
- 募集項目：学会ロゴマークデザイン
A4 紙サイズ以内の大きさで、一般に使用されているコンピュータソフトウェアを使用して作成したグラフィックデザイン（カラーとモノクロ版の2種類）。
- 提出物：
①デザイン（カラー、モノクロ）を A4 紙に印刷したもの各 1 枚
②ソフトオリジナルファイルとそれを PDF ファイル化したものを記録した CD-ROM ディスク 1 枚
- 選定方法：採用するデザインは、企画運営委員会内に設置した選定部会において、公正に選定致します。
- 謝礼等：採用デザイン作成者に、図書券 3 万円分を、佳作作成者（2 名）に、図書券 1 万円分を贈呈します。
- 著作権：ロゴマークの著作権は本学会が所有します（商標登録することを予定しています）。
- 応募締切：平成 21 年 8 月 31 日（月）
不明の点がございましたら、学会事務局へ問い合わせください。

【応募・提出先】

一般社団法人廃棄物資源循環学会事務局
〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F

第 14 回「リサイクル技術開発本多賞」募集案内

本賞は、元・大阪市立大学工学部教授、元(財)クリーン・ジャパン・センター参与 故本多淳裕先生が、自らの著書出版印税を 3R 関連開発に従事する研究者・技術者等へ提供し、研究及び技術開発を奨励する制度として提案なされ、平成 8 年度に設立された表彰制度です。
募集期間 平成 21 年 7 月 10 日(金)～9 月 30 日(水)必着
※詳細は、(財)クリーン・ジャパン・センターのホームページ (<http://www.cjc.or.jp/>) をご覧ください。

会 員 状 況		H21.5.31 現在 ()内は、H21.4.1 以降の増減
正 会 員		2,747 (+13)
学生会員		284 (+30)
外国人会員 (DM)		23 (±0)
登録団体市民会員		6 (±0)
公益会員		95 (±0)
賛助会員		126 (-1)
計		3,281 (+42)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第 4 条に定める会員を示す。

会費納入のお願い

本学会の会費は、毎年度 5 月末が納入期限となっております。未納の方は、至急のお支払いをお願いします。

廃棄物学会ニュース No.111 平成 21 年 7 月 10 日発行
一般社団法人廃棄物資源循環学会
〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F
Tel.03-3769-5099 Fax.03-3769-1492 <http://jsmcw.or.jp>
印刷媒体は古紙を配合した再生紙を使用しています

<JSMCWM Newsletter No.69 (July)>

今号では、新たな試みとして、読者との双方向コミュニケーションを目指し、コメントの他、記事募集呼び掛けをしております。主要な記事としては、まず、昨今の温暖化議論に関連し、エネルギー源の多様化に伴い発生する副産物の課題として、東アジアの石炭灰の発生状況を取り上げました。その他、水銀管理面で日本政府の貢献、5 月に韓国大邱市で開催された韓国廃棄物学会 2009 年春季学術研究発表会の報告を掲載しました。

(主要目次)

- 巻頭言（双方向コミュニケーションに向けて）
- 東アジアの石炭灰
- 世界水銀パートナーシップ廃棄物分野への貢献
- 2009 年韓国廃棄物学会参加報告

※JSMCWM Newsletter は電子配信のみとなっています。最新号、バックナンバーは学会ホームページから入手できます。

Contents of JSMCWM NL No.69

- 1 Dear Waste Management Experts
- 2 The coal ash in East Asian countries
- 3 News from the Korea Society of Waste Management
- 4 UNEP Global Mercury Partnership Contributes to Mercury Waste Management

事務局だより

新型インフルエンザの蔓延の可能性が社会的問題となる中で、一般社団法人となった廃棄物資源循環学会の初めての総会と 20 周年記念式典が行われました。式典での 20 年の歩みに関する報告を受けて、感謝状を贈呈された方々も含めて実に多くの方々が、様々な分野にわたる学会活動を支えてきたことを改めて認識させられました。

学会の名称に「資源循環」が盛り込まれました。「資源循環」の考え方は、世代間を超えた長期的視野に立って、過去を振り返りつつ未来を探るという行動を推し進めることが重要となります。現在の使い捨て社会から循環型社会への変革を進めることは、我々現世代の者に与えられた命題です。しかし、温暖化ガス削減対策の遅滞や金融危機対策の進め方などの身近な出来事を見ていると、将来世代に及ぼす影響への配慮のない社会活動は、相も変わらず続いているように思えてなりません。一人一人の自らの生活における意識と行動の変革が求められておりますが、学会としても新名称にふさわしい活動の実践が求められています。学会会員の皆様が先頭に立って行動し、循環型社会構築に向けての各分野との連携や協力がより一層進展していくことを期待しております。

(松村治夫)

メールアドレス登録のお願い

まだ E-mail アドレスを登録されていない会員の方は、至急、学会ホームページより登録をお願いします。5 月以降、メールニュースが届いている方は登録済みです。

次号 (学会ニュース No.112) は 9 月 4 日発行予定です。
※学会ニュースはホームページに掲載しています。印刷版の郵送が不要になった場合には、事務局までご連絡ください。